



特別展

金沢の 女学生



会期

令和6年

8月31日(土) ▶ 11月24日(日)

休館日：毎週月曜日(祝日の場合は翌平日)
10月28日(月)は臨時開館し、翌29日(火)は臨時休館

主催：金沢くらしの博物館／公益財団法人金沢文化振興財団
後援：北國新聞社／北陸放送／テレビ金沢



金沢の女学生



金沢市立金沢女子高等学校

絵葉書「金城高等女学校作法室」 昭和2年(1927)

明治から昭和初期の女性教育は「良妻賢母」を目指したものであり、家事や作法に力を入れていました。特に裁縫は着物を家庭で縫うために欠かせないものでした。

金沢市内には多くの女学校がありました。当時は進学できる人は限られており、あこがれの存在でもありました。その一方で職業学校などに進学する人もいました。

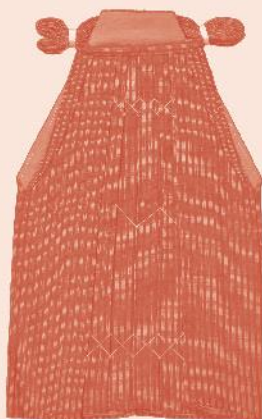
そんな当時の女学生にスポットをあてて紹介します。今とは違う学生生活に思いをはせていただければ幸いです。

キーワード①「裁縫雛形」

短時間でできるだけ多くの縫い方を教えるために使われたのが「裁縫雛形」です。渡邊辰五郎(東京裁縫女学校)が考案し、全国に広まりました。

基本はミニチュアですが、必要に応じて一部を等寸大で作成し、技術の習得を可能にしています。

本裁男袴袴 大正8年(1919)頃



キーワード②「当時の生活」

当時の女学校ではどのようなことを学んでいたのでしょうか。女学生の日記や同窓会誌などに掲載された文章などを引用して紹介します。

例えば、金沢第一高女では月に1回ほど遠足があり、体育なども力を入れていたようです。

当時は「作法」の授業があり、和室などを使って、来客の対応など様々なマナーを学びました。



金沢ミュージアム+



ウェブサイト「金沢ミュージアム+(プラス)」では、金沢市が所蔵する様々なコレクションを紹介しています。当館所蔵品の画像データや年代等の情報もご覧いただけます。

北陸学院ウィン館(金沢市飛梅町)

金沢女学校(北陸学院)の設立に関わったトマス・ウィンの住宅(市指定保存建造物)を活用し、同校の沿革と教育などを紹介。

開館 4月~12月の月曜~金曜、9時~12時
※土日祭日、学院の休業日は休館、入場料無料

金沢くらしの博物館 金沢市飛梅町3-31 (紫錦台中学校敷地内)

TEL&FAX(076)222-5740

<https://www.kanazawa-museum.jp/minzoku/>

開館時間 9時30分~17時(入館は16時30分まで)

休館日 毎週月曜日(祝日の場合は直後の平日)

観覧料金 一般310円、団体(20名以上)260円

65歳以上・障害者手帳をお持ちの方およびその介護人210円(祝日無料)

高校生以下無料

- アクセス
- 金沢駅兼六園口(東口)6番のりば、11・12・16系統 北鉄バス「石引町」下車、徒歩1分
 - ふらっとバス菊川ルート「飛梅町」下車、徒歩3分
 - 駐車場あり(紫錦台中学校正門入って左手奥)



館公式HPへ

Wi-Fi使えます



SSID: Kanazawa-Free_Wi-Fi

